

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）岩手中部ブロック 会議録

【岩手中部ブロック：花巻市、北上市、西和賀町】

○ 日 時：令和元年8月1日（木）14時00分～16時00分

○ 場 所：花巻市交流会館 1階 交流スペース

○ 出席者

① 会議構成員

花巻市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

北上市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

西和賀町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

中部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般8人、報道3人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 岩手中部ブロックの状況について

【県教委】

- ・ 資料No. 1「岩手中部ブロックの状況について」に基づき説明。

2 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

各地域における学校・学科の配置について

【県教委】

- ・ はじめに、ブロックの現状及び課題等、議論の方向性について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料「後期計画策定に向けた意見交換（岩手中部ブロック）」に基づき説明。

【県教委】

- ・ それでは、1点目「現状を踏まえ、今後、岩手中部ブロックに必要な学校・学科について」、御意見をいただきたい。

【佐藤 北上工業クラブ顧問】

- ・ 岩手中部地区において、県教育委員会は理数科の設置について考えているか。また、中学校の進路指導において、普通科と理数科の教育課程の違いについて説明しているか伺いたい。

【県教委】

- ・ 現時点では、岩手中部地区に理数科を新たに設置することは考えていないが、県全体として理数教育に力を入れていくことは重要であると認識している。
- ・ 各学校の理数科を含めた教育課程については、中学生に対する学校説明会や入試説明会等で学習内容の概要等について説明を行っている。

- ・ 県教育委員会では中学生を対象に、県立高校の学びの内容等をまとめた学校案内「ハイスクールガイド」を作成し、各市町村教育委員会を通じてすべての中学校に配布しているところであるが、今後もさらに各学校の学びの内容を理解いただく取組をしていきたいと考えている。

【吉田 花巻市校長会副会長】

- ・ 中学校の進路指導の状況として、普通科と理数科はくくり募集であることから特別に区別した指導はしていない。理数科への進学に興味を持つ生徒はいるが、理数科のみにこだわる生徒は少ないものと認識している。
- ・ 地区外の高校に進学を希望する生徒については、地区内の高校には設置されていない部活動や、より高いレベルで学習に取り組みたいと考える生徒が多い。

【平野 北上市教育委員会教育長】

- ・ 北上市内には様々な特色を持つ学校が設置されており、学科選択の幅が広い。さらに通学可能な範囲が盛岡市から一関市まで広範囲であることから、生徒が進学先を多岐に選択できる環境は恵まれていると思う。
- ・ 普通科であれば、岩手中部地区には花巻北高校や黒沢尻北高校等があるが、部活動や学習に対する志の高さなどの様々な要因により、地区外の高校への進学を希望する生徒が増加傾向にある。これは、理数科への進学を希望する生徒に限定的なものではない。

【佐藤 西和賀町教育委員会教育長】

- ・ 岩手中部地区には多様な学科が設置されており、生徒の選択肢が確保されていると認識しているが、地区外に進学を希望する生徒が一定数いるということは、地区内に必要な学校が完全に揃っているとは言いがたい面もあるのではないかと。
- ・ 参考資料№2「ブロック間交流の状況」によると、岩手中部地区では地区外から407人が転入し、地区外の高校には267人が転出しているが、学区制限のない専門高校や私立高校への転入出者も含まれていることから、普通高校、専門高校、私立高校に分類したデータに基づき分析を行う必要がある。
- ・ 盛岡地区における令和2年度入試の普通科の定員が2,000名であり、定員の1割が学区外から入学できる制度により200人もの生徒が盛岡地区外から入学することができる。盛岡地区の高校に5学級相当の生徒が区外から入学可能な制度を見直さなければ、県内の学区のバランスが整っているとは言い難い状況であると感じている。

【吉田 花巻市校長会副会長】

- ・ 沿線地区は交通の便がよいことから、進路については学区内の学校であることが理由で選択する生徒のみではないと感じている。
- ・ 近年は、推薦入試での合格を希望する生徒が増加傾向にある。推薦入試は中学校での諸活動の成績が合否に直結するものであることから、岩手中部地区外に合格できる学校がある場合は、地区外の学校を希望する生徒も多い。

【畠山 和賀地区校長会副会長】

- ・ 私立高校は学校の特色が明確であり、特に部活動等で活躍できることから公立高校とは違った魅力を感じている生徒が多く、推薦入試により入学する生徒が増加している傾向にある。
- ・ また、就学支援金制度により経済的な負担が少なくなったことも、私立高校への入学を希望する生徒の増加に繋がっているものと思われる。

【上田 花巻市長】

- ・ 学科の設置については、中学生の進路希望状況等から柔軟に対応していくことが必要であり、実際にどのような学科の設置が必要なのかについては、県教育委員会と学校の議論となる部分が多い。現在の学科の配置が子どもたちの希望に合致しているかの観点はしっかり判断する必要がある。
- ・ 岩手中部地区の生徒が盛岡市内の普通高校に進学する状況が本当によいことなのかの観点を踏まえ、しっかりと検討していく必要がある。
- ・ 岩手県は、明治以降の日本における最大の人材輩出県であるということが県教育振興計画にも示されている。近年では、スポーツにおいてプロ野球等で大活躍している選手がいるところであるが、明治期に比べて子どもたちの才能を本当に伸ばしているか、人材輩出県といえるだけの取組をしているかについて考える必要がある。
- ・ 県内の高校の偏差値については、盛岡地区の高校が上位を占めており、盛岡地区以外の高校の学力が低下傾向にある状況を懸念している。
- ・ 花巻市内の生徒が盛岡市内の高校に通う場合、電車やバスを乗り継いで片道1時間半、往復3時間を要することとなる。現実として、子どもが盛岡地区の高校に進学したことで盛岡市内にマンションやアパートを借りて住み、親が花巻市内の職場に通勤している家庭もある。また、東北新幹線で盛岡地区の高校に通学している生徒もいる状況は問題である。
- ・ 盛岡地区の高校に一極集中している状況を踏まえ、花巻北高校を中高一貫教育校に再編する必要があると考えている。県教育委員会は、一関第一高校の進路実績等から中高一貫教育校の設置について検討していく考えであるが、岩手中部地区の生徒がさらに高いレベルで学ぶことができる教育環境を早急に整備する必要がある。

【及川 北上市副市長】

- ・ 参考資料No.2「ブロック間交流の状況」では、岩手中部地区から盛岡地区に3年間平均で199.7人が転出している状況にある。このうち北上市出身の生徒は70人であり、花巻市からはさらに多くの生徒が盛岡地区の高校に進学していることとなる。
- ・ 盛岡地区に進学する生徒の増加は、スポーツに取り組みたいと考える生徒の増加のみが理由ではない。北上市からも1時間以上かけて通学している生徒や、親と一緒に盛岡市内のアパートに住んで通学している生徒がいるが、このような状況は異常であると感じている。
- ・ 岩手中部地区の私立高校は花巻東高校と専修大学北上高校があるが、両校における今年度の入学生は440人であり、このうち、北上市内の中学校から入学した生徒は158人である。
- ・ 工業系人材の育成についてであるが、管内企業のニーズと地元への就職を希望する生徒数に乖離があることを懸念している。昨年度、管内企業からは約1,000人の求人があったものの、実際に就職した高校生は約450人であり、北上市内の高校については就職希望者340人のうちの170人のみである。
- ・ 管内においては、採用する生徒の学校・学科を不問としている企業が多いが、自動車関連の企業については電気電子系の知識を必要としており、黒沢尻工業高校で学んだ生徒に対する期待が高い。
- ・ 中学生アンケート結果によると、普通科への進学希望が増加し、工業学科への進学希望が減少していることは、地域産業の情勢とは全く逆の方向であり残念である。地域産業のニーズを踏まえ、魅力ある工業系学科の設置について検討が必要である。

【上田 花巻市長】

- ・ 管内企業は高校生が就職するだけでなく、子どもの教育に熱心な社員が赴任してくることも想定しており、岩手中部地区内に子どもを託せる進学校がなければ、単身赴任で来る可能性

が出てくる。県南部については、その方たちの子どもの進学先を確保するために、教育の面でも魅力的な地域にする必要がある。

- ・ 三菱総研理事長の講演にて、A I の人材を確保するため、西日本の工業高等専門学校にA I 教育のプログラムを導入して力を入れている取組が紹介された。岩手県については一関高専が候補になるが、例えば黒沢尻工業高校の学科を再編してA I の人材を育成していけば、東芝メモリやデンソー、トヨタ等の企業に必要となる人材を育成することができる。

【細井 西和賀町長】

- ・ 県内の総合学科は、地域産業等の様々な希望により新たに設置された学科であると認識している。総合学科高校が所期の目的を達成し、生徒のニーズにしっかりと応えた進路を実現しているかについても検証する必要がある。
- ・ 教育関係をはじめとして盛岡一極集中の状況であり、盛岡地区の教育のみが突出することで社会にひずみが生じることを危惧している。今後、盛岡地区への流出に拍車がかからないよう、岩手中部地区から盛岡地区に約 200 人の生徒が転出している状況を分析し、最終的に岩手の県土を創るために必要な各地域の教育バランスを整えるべきである。
- ・ 後期計画の策定に当たり、教育の質の保証には学力レベルの維持も必要であるが、生まれ育った地域に貢献する人材を育成する視点についても大きな要素であると考えている。
- ・ 小規模校については、教員加配等の措置を講じなければ充実した教育環境を維持することは難しい。財政がますます厳しくなる中で、地域が教育のレベルの確保に向けて頑張っていることも考慮の上、地域を担う人材育成のため、教員加配等の協力をお願いしたい。

【刈田 侷佐々木電気店】

- ・ 県内各地域において人材不足という大変重要な問題があり、各地区による綱引きが始まると、教育的にも様々な部分で格差が生じることとなる。学校、学科のあり方は県全体としての方向性を示しながら、公平に議論するべきである。

【藤原 花巻市PTA連合会副会長】

- ・ 普通科に進学を希望する生徒は、自分にとって魅力ある地区外の学校を選択できる状況である。県南部には中高一貫教育の一関第一高校が設置されているが、県内の中心に位置する花巻市にも中高一貫教育校の設置を願う。
- ・ 地域産業を支える地元企業の発展のためにも、専門高校における専門学科の学習内容の強化が必要である。

【佐藤 花巻市教育委員会教育長】

- ・ 第3回地域検討会議では、地域にとって必要な学びを意見交換のテーマとしているが、統合や学級減の方向性についてではなく、子どもたちが自分の進路を実現していくために、県立高校で魅力ある学びをどう創るかを最優先とした議論とするべきである。
- ・ 地域の学びについては国の教育再生実行会議で提言が出されたところであり、提言の柱となる部分が、新しい時代に対応した高等学校改革における学科のあり方、普通科に課題を設定した制度、地方創生との関連、特別の配慮が必要な子どもたちへの支援、中山間地への配慮等であり、これらすべてがこれからの本県における県立高校のあるべき方向性に合致するものであらうと認識している。
- ・ 少子化が進行しても中山間地の小規模校は必要であり、存続させるためにも遠隔教育等の充実を図るべきである。
- ・ 学習指導要領の改訂とともに大学入試制度も変わる中で、学力向上が非常に大きな課題だと

認識している。普通科でインセンティブを高める試みがなければ、子どもたちは希望を持つことが難しいことから、中高一貫教育を拡大する時期に来ていると考える。

- ・ 公立高校の推薦入試制度については検証する必要がある。本来の推薦入試は高校のそれぞれの特徴ある学びに対して要件や能力が合致した生徒を選抜することが目的であるが、実際は部活動の成績等に重きが置かれており、健全な進路指導が損なわれる不安がある。
- ・ 岩手中部地区では、専門高校における産業教育を一層充実させる必要がある。これから先を見通した産業ニーズに対応できる専門性を持った生徒を育成することについて、農業、工業、商業、情報、家庭、福祉に関する教育には力を入れるべきである。
- ・ いわゆる多動傾向等であっても十分な能力を持つ子どもたちについて、学力の保証に向けた先見的な取組をしてもよいのではないかと考える。
- ・ 花巻市でも不登校傾向の児童生徒が増加しており、そのような子どもたちが高校に入学して基本的な部分から学びなおし、自己実現を図ることができる学びの環境整備も重要である。
- ・ 外国人の子どもが増加傾向にあり、日本語にハンディを持つ外国人生徒も学べるシステムづくりも必要になると考えている。
- ・ 令和2年度までの前期計画については最終段階であるが、岩手中部地区における公立高校9校の学科・学級数については今のところバランスが取れており、入学者数も満たされている。今後の後期計画については、地域の実態に即して県内外の子どもたちに魅力を与えられる計画となるようお願いしたい。

【県教委】

- ・ それでは、次に2点目「中学校卒業生数が後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から学校統合で対応する考え方等について」に関する御意見をいただきたい。

【上田 花巻市長】

- ・ 学校を維持するためには、統合または学級減以外にも方策はあるはずである。岩手中部地区において県教育委員会が統合を想定している学校は大迫高校と西和賀高校と推測するが、中山間地の子どもたちに教育の機会を保障し、地域づくりを推進する観点から、大迫高校と西和賀高校については存続させるべきと考える。
- ・ 岩手中部地区の学校は定員をほぼ満たしている現状であり、再編計画による学級数調整の必要はないと考えている。将来的に生徒数が減少していくことは深刻に受け止めなければならないが、後期計画期間中において、極端に欠員が増加する学校が生じるとは考えにくいと捉えている。
- ・ 第2回地域検討会議において、県立高校は学級数に応じた国からの地方交付税により運営しているとの説明であった。このことについて、例えば岩手中部地区の学級数を減じることで地区内すべての学校が定員を満たすことになるかもしれないが、地方交付税が減額となるだけであって、岩手県の財政にプラスの効果がないのであれば、学級数を減らす必要はないのではないかと考える。

【高橋 西和賀町産業関係者代表】

- ・ 国の教育再生実行会議では、全国的に約7割、県内では約6割の生徒が在籍する普通科を類型化するという話がある。多様化する生徒の希望を実現するための計画であるが、そのような方向性の中でこそ普通科の充実を望んでいる。
- ・ 少子化の進行により統合や学級減の計画となるが、小規模校は残していただきたい。

- ・ 農業教育については、単に従前の農業技術を学ぶのみではなく、AIを使ったスマート農業や経営学等も学ばなければならない時代である。また、農業高校を卒業しただけでは農業経営者を育成することは難しい面もあるので、普通科からも上級学校に進学し、将来、地域の農業後継者となる人材を育てる必要がある。
- ・ 西和賀高校は小規模校ではあるが、地域の高校への選択肢があることによって、中学校までは子どもたちが残っているという事実があり、西和賀町で育った経験があるからこそ、将来的に地元に戻ってくる可能性がある。西和賀高校はこれからも存続させるべきであるし、そうしなければ、子どもたちの郷土愛は育たないものとする。

【及川 北上市副市長】

- ・ 北上市にとって西和賀高校は大切な学校と捉えており、後期計画において統合となることを想定していない。
- ・ 岩手中部地区への中高一貫教育校と理数科の設置については、地域の総意と受け取っていたきたい。花巻北高校や黒沢尻北高校において中高一貫教育で学ぶ環境や、理数科を学ぶことができる選択肢をしっかりと整備してほしい。
- ・ 岩手県の教育のあり方については、県教育委員会の考えに基づき議論すべきであり、その考え方を共有できるのであれば知事部局と交渉していくものである。岩手県の教育のあり方を検討するにあたり、どのように行動すべきか優先的に考えていただきたい。

【細井 西和賀町長】

- ・ 岩手中部地区には、花巻市、北上市の中心地となる平野部と、西和賀町や花巻市の大迫のような中山間地の両方がある。平野部、中山間地それぞれで学ぶ選択肢を、ぜひ残していただきたい。
- ・ 西和賀高校は前期計画において1学級校となったが、1学級の特例校として一定の条件により存続することから、その基準を上回る入学者を確保したいと考えているところである。
- ・ 地方には日本の様々な諸課題を解決するための重要な要素があることから、中山間地を担う人材を育成する地域であることをしっかりと位置づけ、教育の機会について保障していただきたい。

【畠山 和賀地区校長会副会長】

- ・ 高校再編についてはブロックごとに検討することも大切であるが、全県的な視野で検討することも必要である。
- ・ ブロック間交流については、内陸部から宮古地区や気仙地区の学校に進学する生徒はわずかである。東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸部の学校についても統合や学科改編が行われるものと思うが、子どもたちの可能性が失われることがないように、最優先で魅力ある学校づくりをしていただきたい。

【県教委】

- ・ 後期計画を策定するにあたり、本日の会議で頂戴した高校教育のあり方等についての御意見を含め、各ブロックの御意見を積み重ねながら全県的な視野で考えて参りたい。
- ・ 岩手中部地区の学校を現状のまま維持するという選択肢もあるが、生徒にとって、学校規模が小さくなることによるデメリットについても念頭に置いた検討が必要であると捉えている。
- ・ 教育の機会の保障とともに教育の質の保証を考えたときに、学力の維持向上のためには、一定の教員を配置できる規模の学校も必要となる。小規模校であっても各地域に残す必要性については皆様の強い御意見を伺ったところであるが、今後、急速に生徒数が減少していく中で、

令和 15 年度の中学校卒業生数までを見据え、引き続き後期計画の策定に向けて検討を進めて参りたい。

【県教委】

- 本日の地域検討会議では、地域における学校、学科等について具体的な御提言・御意見を伺い、地域の高校に対する皆様の深く熱い思いを改めて感じたところ。
- 新たな県立高等学校再編計画は、教育の質の保証と機会の保障を掲げて 10 年間の計画でお示ししているところであるが、後期計画の策定においても生徒を最優先として考えていくものであることから、昨年度実施した中学生アンケートの結果等も含めて御議論いただいた。
- 生徒が希望する学校に進学できることも大切なことであり、そのために、本県では普通科に学区外許容率 10%の枠を設けている。また、地方創生の観点や人口減少対策等を含め、県外生徒の受入れについても来年度入試に向けて検討しているところである。
- 魅力ある学校づくりについては、岩手中部地区の高校はもとより、県内すべての県立学校が取り組んでいることを御理解いただきたい。
- 前期計画の最終年度にあたる令和 2 年度の学級編制案について、先般お示したところである。高校再編については、再編計画通りに粛々と実行するべきとの御意見もあるが、生徒の志望動向や地域の取組等を勘案した令和 2 年度の学級編制案についても、県教育委員会の考え方を御理解いただけるものと認識している。
- 後期計画は令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間であるが、人口減少はその後にも急激に進むことから、その先を見据えた計画を策定することとしている。本日の会議では新しい視点も含めて様々御意見を頂戴したことに感謝申し上げます。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第3回)【岩手中部ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	花巻市	上田 東一	花巻市長	
2		佐藤 良介	花巻商工会議所 副会頭	
3		藤原 耕一	花巻市PTA連合会 副会長	
4		佐藤 勝	花巻市教育委員会 教育長	
5	北上市	及川 義明	北上市 副市長	
6		佐藤 秀之	北上工業クラブ 顧問	代理
7		平野 憲	北上市教育委員会 教育長	
8	西和賀町	細井 洋行	西和賀町長	
9		刈田 敏	術佐々木電気店	
10		高橋 宏	西和賀町産業関係者代表(農業)	
11		小田島 規之	西和賀町PTA連合会 会長	
12		佐藤 敦士	西和賀町教育委員会 教育長	
13	地区中学校校代表	吉田 靖雅	花巻市校長会 副会長(花巻市立花巻北中学校長)	
14		畠山 敏	和賀地区校長会 副会長(北上市立和賀東中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
15	県議会議員	佐藤 ケイ子	岩手県議会議員	
16		川村 伸浩	岩手県議会議員	
17		木村 幸弘	岩手県議会議員	
18	県立高等学校	菅野 慎一	花巻北高等学校長	
19		菅原 一成	花巻南高等学校長	
20		榎原 健	花巻農業高等学校長	
21		太田 優子	花北青雲高等学校長	
22		小船 光浩	大迫高等学校長	
23		泉 悟	黒沢尻北高等学校長	
24		千葉 幸也	北上翔南高等学校 副校長	
25		三田 章徳	黒沢尻工業高等学校長	
26		鈴木 尚	西和賀高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
30	県教育委員会事務局等	佐々木 健一	中部教育事務所長	
31		平賀 英和	中部教育事務所 主任指導主事	
32		梅津 久仁宏	教育次長	
33		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
34		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
35		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
36		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
37		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
38		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	